

5年 わたしの地図活用

海ごみと地図帳を結びつけた授業

佐渡社会科授業を研究する会
新潟県 佐渡市立新穂小学校 猪股 快門

1 はじめに

私が住む佐渡島は、緑豊かで海の恵みも大変豊かな島である。その反面、海岸を歩くと流れ着いた「海ごみ」（漂着ごみ）がたくさん見つかり、心を痛めている。私は、教員になった十数年前から海ごみに興味をもっており、最初の赴任校（中学校）でも海ごみについて授業をしたり、さまざまな活動に取り組んだりしてきた。島国である日本は、海ではほかの国とつながっている。今回は、5年の学習単元「日本の領土と周りの国々」で海ごみを取り上げた実践を紹介する。

2 やっとわかった！ごみのふるさと

長年、海ごみに関心をもってきて、疑問が一つあった。それは、朝鮮半島から流れてきたごみが韓国から来たものか、朝鮮民主主義人民共和国（以下、日常的に使われている北朝鮮と示す）から来たものかである。つまりどのように見分けるかということだ。

従来、私は「文字」で国を判断していた。例えば、中国であれば漢字の簡体字、台湾であれば繁体字、ロシアであればキリル文字が使われているからだ。さらに「made in ○○」の表示も参考になった。しかし、ハンゲルに精通していない私には、ハンゲルを見ても韓国か北朝鮮かについては判断がつかなかった。それがあるとき、ふと「バーコード」を使う方法を思いついた。バーコードは、国ごとに必ず数字が決められている（日本なら「45、

49）。調べてみると、韓国は「880」北朝鮮は「867」で始まるのである。

海岸に行った際に「867」から始まるごみをさがしてみた。

写真1 海岸で拾った北朝鮮のペットボトル



写真1 海岸で拾った北朝鮮のペットボトル

3 5年生「日本の領土と周りの国々」

5年生の始めの「日本の周辺にどのような国があるか」を学ぶ際に海ごみを教材として用いた。「佐渡に流れつくごみは、どこから来ているか」を課題にし、児童に予測させた。『楽しく学ぶ小学生の地図帳』（以下、地図帳）のp.11～12（図1）、67②などを見ながら、児童は、予想していた。海に囲まれた佐渡では、海の生き物などが海流によってやってくることを知っている。「対馬海流に流されてくれば……」など、海流に着目しながら



図1 『楽しく学ぶ小学生の地図帳』 p.11～12

ら発言する児童もいた。

ここで、実際に海に出かけ調べてみよう！とできれば最高であるが、どの学校でもできるわけではない。そこで、それができない場合には、教師の側で実際に拾ってきたもの(ペットボトル、菓子袋、洗剤などの容器のかけら)を児童に提示する。中国や韓国、北朝鮮、ロシア、そして、ベトナム、マレーシア、インドネシア製品のごみが流れついていることを知り、児童はびっくりしていた。地図帳p.11～12の同心円を見て「この中国のごみは、もしかしたら2,000kmくらい海を旅して来たのかもしれないな」などと発言する児童もいた。

新潟県が調べた佐渡沿岸の海ごみの分類(図2)を見ても、やはり日本の周りにあるハングルを使う韓国と北朝鮮、中国、ロシアからのものが多いことがわかる。佐渡では海ごみの半分は外国から流れ着いたもの、半分は私

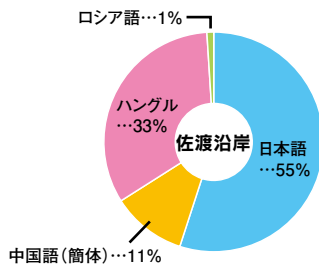


図2 佐渡沿岸の海ごみの言語表記
(2011年11月～2012年3月調査)
たがが出した (新潟県『新潟県の海岸漂流ごみ』2015年)

たちが出したものである。ここで海ごみを減らすには、私たちの努力が必要なことも付け加えたい。また、学習すると自分も海ごみを拾ってみようとする児童もいるかもしれない。ただし、海ごみには注射器などの危険物もあるため、児童だけで拾いに行かないように伝えた。

この実践では、身近に流れつくごみを用いて、日本の周りにどんな国があるかを実感的に理解させることができた。

4 遠足で海岸清掃を行う

2018年度の春の遠足は、私が目的地や活動



写真2 海岸清掃のようす。拾ったごみについての説明をしているところ。

を提案することになった。そこで、私は、午後の選択活動の中に「海岸清掃」のグループをつくった。15名程度の児童が一斉に海ごみを拾い、海岸を清掃し、外国のごみや、日本のものか外国のものかわからない謎のごみがあれば、届け出るようなくみで活動した。その中の1人の児童が見事「867」の歯磨き粉のごみを拾った。「これは北朝鮮で生産されたものだね」と話すと児童は、大変興味深そうにしていた。学期はじめの社会科の授業では海岸に行けなかったのが、遠足での活動が大変有意義なものになった。また、実際にごみを拾うことで、児童には環境を守る大切さを伝えることができた。逆に自分が捨てたプラスチックごみが、遠く離れた国の海岸をよごす可能性があることも知ってもらいよい機会となった。

5 おわりに

児童が、海ごみがどこからきたのかを地図を見ながら考えるとき、「日本とその周りの国」について俯瞰的な見方ができ、海ごみと地図帳の活用は、大変有意義な授業となった。また、昨今話題のプラスチックごみなどの環境問題にも直結させたい内容である。児童の関心も高い海のごみの授業がほかの地域でもさらに開発されていくことを望む。